

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	富山市恵光学園（カンガルー教室）		公表日		令和7年3月5日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・現在あるスペースを最大限に使用できるよう、机椅子等の配置を工夫している。 ・安全面を確保できるよう環境設定を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・グループの利用人数に合わせて職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・スケジュールを視覚的に提示するなど、グループや個人に合わせて過ごしやすい環境設定を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・教室後に掃除や換気を行っている。 ・感染症予防のため、消毒を徹底している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・個別の部屋の確保は難しいが、クールダウンできるスペースはある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		・目標設定と振り返りを日々心掛けて業務に務めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・昨年度の評価表を基に改善してきた。今後も保護者のニーズ・教室へのご意見などを把握し、改善していきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・業務後にカンファレンスを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5			・当法人の評議員の方々に、評価結果を見てもらう予定である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・オンライン研修や学園の学習会など、様々な研修にできるだけ参加し、職員の資質向上を図っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・R6年度から、ホームページに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・アセスメントでお子さんや保護者からニーズを聞きとり、子どもの姿や発達段階に沿った支援計画をⅠ期とⅡ期に作成している。 ・半年ごとに児童発達支援計画の評価と見直しを行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・サービス担当者会議や個別支援会議を開催し、支援計画に反映している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・児童発達支援計画に沿った支援を心掛けている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・カンガルー教室独自のアセスメント表を使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・子ども一人ひとりの支援に必要な項目「発達支援」「家族支援」「地域支援」を子どもの状況に合わせて設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・毎回、職員で話し合いを行い、活動内容や支援の方法を決めている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・グループに合わせて課題を設定し、固定化しないようプログラムを設定している。	
---	----	--------------------------	---	--	--	--

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		・児童発達支援計画の中に個別活動と集団活動のどちらも取り入れ、その子に合った支援を行うようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・教室開始前に支援内容や役割分担について確認し、共通認識のもと支援をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・カンファレンスノートを使用し、その日に行われた支援の振り返りを行っている。反省点や気づき、次回教室の改善点や工夫点などを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・教室終了後に、必ず職員で個人記録を作成し、次の指導に活かすようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・Ⅰ期とⅡ期の評価時にモニタリングを行い、課題の見直し等を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・会議には、児発管、指導員が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・保健センター、協力医療機関等、必要に応じて連携をとれる体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		・保護者の了承のもと、お子さんの在籍園や移行先とは必要に応じて訪問や見学など、情報共有する機会を設けている。インクルージョンの視点から、地域での過ごし方についても支援している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		・保護者からのニーズがあった場合に連携し、移行支援会議を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		・同じ建物内に児童発達支援センターがあるため、連携を図っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5	・子どもたちは保育所、こども園などに在籍しているため、事業所としては行っていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・教室参加時や電話・メール相談等において、子どもの発達の状況や課題について保護者との情報共有を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		・希望があった保護者にのみ支援を行っている。一部の保護者だけでなく、全体に提供できるような研修会なども検討していきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・契約時に説明を行い、必要時にはその都度、保護者に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・アセスメントの中でお子さんと保護者のニーズを確認した上で、支援計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		・児童発達支援計画を作成し、保護者へ説明し同意を得ている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・相談を受けた際には、速やかに対応できるよう心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・在籍園があるため、保護者会はない。 ・今年度は、兄弟児支援を目的としたサロンを開き、希望があった家族を対象に支援を行った。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・必要に応じて相談員と連携し、迅速かつ適切に対応するよう心掛けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・会報等は作成していないが、毎回活動内容・ねらいなど記載した活動表を保護者に配布している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・取り扱いには、十分注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・大人が見本となって伝えたり、仲介したりすることで配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	・行事は行っていない。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・総合火災避難訓練に参加している。 ・避難場所については教室内に掲示している。 ・マニュアルは作成しファイルを教室内に設置している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・職員は通園部と合同で、様々な非常災害の訓練を定期的に行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		・保護者からアセスメントする中で対応している。服薬や既往歴については確認しているが、予防接種については確認していない。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・保護者から情報を提供してもらっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・安全計画を作成し、定期的に研修会や訓練を行っている。	・定期的に安全計画の見直しを行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		・安全や保健に関するお知らせを配布、掲示して周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・教室中にヒヤリハット事例があった場合は記録として残し、通園部と共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・園内研修に参加している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		・保護者へ事前に説明し、書面にて了解を得ている。児童発達支援計画にも記載している。		